好きだから がんばれる 好きなことは つらくない

新宿シンちゃん

夢に向かって 好きなこと とことんがんばろう！

ぼくの「好き」は絵を描くこと

将来のことを考えるとき、「自分はなにがすぐれているだろう、なにが好きだろう」と考えてみるといいと思います。ぼくの場合は、小さいころから大好きだった「絵を描くこと」が、現在の仕事につながっています。祖母は「うちの子は、クレヨンと紙を渡せば1日中遊んでいるから楽だ」と話していたそうです。

中学生になると漫画に興味を持つようになって、自分で漫画を描いて雑誌に投稿（とうこう）するようになりました。よく入選していたんですよ。

だれだって、好きなことに取り組んでいるときは決してつらくないし、自然と努力するものです。例えば、サッカーなんて練習はすごくきつくて大変だけど、好きだからがんばって練習して上達していきますよね。好きなことをずっと続けていき、それが職業になれば一番いいでしょう。

何が好きかは、人生を歩んでいくうちに自然と気が付くもの。そして、好きなものは変わっていくので、進むべき道も変化していきます。

ぼくもデパートでデザインの仕事をしていましたが、ずっと漫画の投稿は続けていました。だんだんと原稿料をもらえるようになったので、デパートを辞めて漫画家になったのです。

「うん・どん・こん」を大切に

好きなことを続けて夢をかなえるためには、どんなことがあってもあきらめない気持ちも大切です。ぼくだって漫画家になってから、仕事がこなくなったりしてピンチはあったんです。でも、あきらめませんでした。

好きなことをがんばるためには、「運（うん）・鈍（どん）・根（こん）」を心がけるといいですよ。

まず、自分で「運」をつかむこと。「鈍」は利口に立ち回るより鈍重（どんじゅう）に（あわてずにどっしりかまえて）物事を進めること。「根」は根気、つまり、あきらめないで続けることです。「うん・どん・こん」の精神でやっていけば、どんなことでもなんとかなると思います。

また、がんばるためには体力が第一。しっかり食べて運動して、いつでも困難に立ち向かえる丈夫な体づくりを実践してほしいですね。

みんなを喜ばせる「いい人」になって

将来仕事をするときには、「人を喜ばせること」を一生懸命考えてほしいですね。

医者は患者さんの病気がなおって喜んでくれることが、歌手は歌を聴いた人が感動してくれることが何よりもうれしいはず。世の中で一番面白くて楽しいことは、「人を喜ばせること」だと思います。そのためにも、好きなことを続けるのが、一番いいんですよ。

そして、「いい人」になってください。「いい人」とは、ごく普通の人ということ。それは例えば、動物をいじめない、ゴミをやたらに捨てないなど、まわりに迷惑をかけないようにすることです。

「いい人」であれば、なんでも自然とうまくいくようになりますよ。

技術力も表現力もある選手になりたい

できるまであきらめない

樋口新葉（ひぐちわかば）さん
淀橋第四小6年

3歳でフィギュアスケートを始める。2011年オール関東フィギュアスケート選手権大会ノービスB（9歳～10歳の部）女子シングル優勝。今年4月にイタリアで開かれた国際大会でも優勝し、東京都スケート連盟の強化選手に。

コーチといっしょにフォームを確認

スケートのことがいつも頭から離れません

スピンやジャンプなど、できなかった新しい技ができるようになった「瞬間」が大好き。一つの技ができるようになったら、次の目標を決めて練習します。朝練習は眠いけど、滑っているうちにだんだん楽しくなって、気持ちものってきます。努力すればするほど結果が出るから、練習もがんばれるんだと思います。

所属するクラブの友達と試合で応援し合ったり、「金メダルを取ろう」などと話したりします。イタリアの大会に出てから、自分に自信もついてきました。世界選手権やオリンピックに出られるよう、もっと練習してがんばります！

練習しただけ強くなる

西沢樹（にしざわいつき）さん
私立本郷中3年（区内在住）

フェンシングは小学4年生から。体のどこを剣で突いてもよい「エペ」に種目を変更した昨年から成績がアップ。今年3月、モスクワで開かれたカデ（14歳～16歳の部）の世界選手権に出場。

コーチの勧めで「エペ」に変わり、相手に合わせて駆け引きするフェンシングの魅力に目覚めました。試合で勝てるようになると、より「強くなりたい」と思い、自分の弱点を考えながら練習しています。

コーチの注意や気が付いたこと、自分の目標をノートに書き、いつも意識しています。このノートを見るとやる気が出るし、試合前には落ち着けるんです。

今まで引っ込み思案なところがありましたが、国際大会に出場し、海外の選手と友達になるなど、フェンシングから世界が広がっています。まずは「カデ」の部で優勝！ そして、オリンピック出場！

相手の技を読むのがフェンシングの面白さ

大学生や社会人とも練習（ワセダクラブで）

日本代表のユニフォームを着られる喜びを感じています

好きなのはショパン。今年もコンクールに挑戦します

指導を受ける先生と

音楽で周りを元気に

加藤有希乃（かとうゆきの）さん
牛込第三中1年

5歳からピアノを始め、昨年、初めて参加したコンクール「第1回日本ベートーヴェンコンクール全国大会」小学5・6年生の部で優勝。

「技術より表現が大切」と教わってから、自分の気持ちを音で表現できるピアノの面白さや素晴らしさが分かり、ますますピアノが好きになりました。

今は、曲のイメージを自分なりに考えてから弾いています。小学校の卒業式では歌の伴奏をし、みんなで音楽を作りながら気持ちが一つになることに感動しました。

また、東日本大震災の被災地で、たくさんの人が歌や演奏で勇気づけられているのを見て、音楽の「力」を感じます。みんなを元気にしたり、夢を届けられるようなピアニストになりたいです！